

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、板屋圏域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和4年7月14日（月）9時30分から11時10分まで
参加者	委員：13人 事務局：14人
場所	アイミティ浜松 ホール
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 地域包括支援センター板屋圏域協議体会長</p> <p>3. 協議事項</p> <p>① 昨年度の振り返り 生活支援コーディネーターより、パワーポイントを用いて昨年度協議体の振り返りを行った。</p> <p>② Google マイマップの紹介 生活支援コーディネーターより、Google マイマップを利用した各地区のマップ作成の状況について共有を行った。</p> <p>③ 民生委員児童委員へのニーズ調査結果の紹介 市社協より、昨年度行った民生委員児童委員（江東地区、駅南地区、八幡地区、元城地区）へのニーズ調査の結果について紹介を行った。</p> <p>④ グループワーク 《江東地区・中央地区》 地域の買い物場所について 《アクト地区・駅南地区》 交流の場について (交流のない方、交流が少なくなった方)</p> <p>《江東地区》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者によっては、近所の車を持っている方に買い物と一緒に行くようお願いをしていることがある。 ・シニアクラブに今まで来ていた方が、足が痛くなってしまったと言い、来なくなってしまった。そのような方とは連絡が途切れてしまい、買い物など生活をどうしているのか分からない。 ・買い物の代行支援だけでなく、一緒に重い物を持って帰るような仕組みがあってもいいと思う。高齢者は自身の目で商品を見て買いたいと思っている。高齢者は買い物場所が近くても遠くても、身体面で大変なことがあれば、買い物は大変なことだと思われる。 ・運転ボランティアを検討したこともあるが、高齢者が運転するリスクや、立ち上げをするまでが大変だった。しかし、運転ボランティアがあれば、商品を見て買い物をすることができたり、運転手と顔見知りになって関係を作ったりすることができる。 ・杏林堂のとくし丸を呼ぶことについては、停まることのできる場所を考えれば呼ぶことも検討できると思う。(例えば、領家の屋台小屋の前など) ・江東地区社協では、一人一人の関係を大事にしたサロンを行っている。 ・重たいものを配達してくれる業者について知りたいと思っている方はいると思う。 ・江東地区としては、買い物困難地域とまではいかないのではないか。 <p>《中央地区》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物について地域全体として困っている様子はない。しかしスーパーが遠い町では困っている方がいると思う。とくし丸を呼ぶには、本当に必要な地域を調べてからの方がよいと思う。 ・居場所としてベンチを置くという案について、町内に座れるベンチが多くあるが、自転車置き場と重なってしまい使えていない状況。

	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭りのおはやしやラップを教え合うような場では、お年寄りと子どもの交流の場となっている。このような場所であっても居場所だと思われる。様々なきっかけで居場所は作れる。 ・もっと地域住民の話を直接聞くようなニーズ調査を取ってもよいと思う。 <p>《アクト地区》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンション住民と地域の関わりは薄くなっていると思う。3世代同居も減り、生活の組み立て方が変わっている。昔ながらのスタイルをマンションの住民には押し付けられない。また、町内に住んでいる子どもの数が減少しており、子ども会の存続や、多世代地域交流の場が無くなってしまっている。子どもとの交流の場が今後必要となると思われる。 ・ちょっとしたことを頼める社会資源を作る必要がある。そのボランティアをどのように作るのかが重要。公園で花木を植えるボランティアをしているが、小学校の保護者なども参加し、花を植えるということを楽しんでしている様子。何かに貢献したいと思っている地域の人是一定数いると思われる。特に定年後の方は何か張り合いを求めている。楽しく時間制限のないボランティア活動があれば人は増えるのでは。 ・買い物について、車に乗れる高齢者はよいが、重たいものを持って帰ることが大変と聞く。 <p>《駅南地区》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中田島街道は道路が広く、高齢者が渡り切るのは大変。 ・シニアクラブについて、高齢化してしまっている。それに伴い休会しているところもある。また男性の参加が少なく、8割は女性。 ・シニアクラブでは明確に参加者と役員（スタッフ）が分かれているため、参加はするけど役員まではやれないという方が多くいる。そのため、役員も高齢化し、減少している。 ・寺島町ではマンションが増えて、住民も増えている印象があるが、交流する場や機会がない。 ・シニアクラブについて参加者が固定化されており入りにくいというイメージを持っている方がいる。 ・シニアクラブ会員の交流の機会として旅行や食事会等を企画しているが、参加する人は少なく固定化されている。 ・町を越えての交流が難しい。 ・駅南地区には独居の方が多いため、高齢者同士の集まる場所があればよい。 ・地区社協立上げの話が出ているが、担い手が課題となっている。 ・ビオあつみの2階が地域交流の場となっている様子。 ・地域交流の場として、駅南地区の人は南部協働センターを多く利用している。 <p>4. その他</p> <p>5. 閉会 地域包括支援センター板屋圏域協議体 副会長</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>今回は、各地区の民生委員にとったアンケートの集計内容について紹介を行った。地域の様々な状況や困りごとについて、詳細を把握している民生委員のアンケートを今回共有できたことは、協議体の協議の元となってくるため、今後もアンケート結果については内容の確認を行っていきたい。</p>